

平川市の家計簿



市の令和4年度決算が9月議会で認定されました。市の会計は、普通会計・特別会計・企業会計の3種類からなり、決算は1年間にどれだけの収入があり（歳入）、それがどのように支出されたのか（歳出）を分類して集計したものです。ここでは、その概要についてお知らせします。

普通会計

普通会計とは、他の市町村と比較できるように経理の範囲が定められた標準的な会計です。当市では、一般会計に学校給食センター特別会計、尾上地区住宅団地温泉事業特別会計などを加えたものを普通会計としています。

245億6,615万円 歳入 **歳出** **234億2,468万円**

内容と主な事業		区分/決算額	区分/決算額	内容と主な事業		
自主財源 19.2%	皆さまが納めた税金です。 ■市民税 / 11億3,027万円 ■固定資産税 / 11億2,416万円 ■軽自動車税 / 1億3,402万円 ■たばこ税 / 2億5,553万円 ■入湯税 / 364万円 市民1人当たりになると 88,375円 ※令和5年3月末の人口29,959人で計算	市税 10.8% 26億4,762万円	総務費 28.1% 65億7,433万円	庁舎の管理、徴税、まちづくりなどに支出しました。 ■新本庁舎建設事業 / 42億6,583万円 ■第2庁舎改修事業 / 1億5,004万円 ■すこやか住宅支援事業補助金 / 2,781万円		
	特定のサービスを受ける人に負担してもらったお金（保育料など）や施設使用料、住民票発行手数料などです。 ■ふるさと納税 / 2億5,995万円	負担金・使用料など 8.4% 20億5,882万円		民生費 26.6% 62億4,368万円	お年寄りや障がいのある方、生活保護、子育て支援などに支出しました。 ■保育対策事業 / 15億3,231万円 ■老人福祉対策事業 / 11億7,306万円 ■障がい福祉対策事業 / 11億2,721万円 ■生活保護費 / 5億3,870万円	
	国が徴収した自動車重量税などのうち、一定基準が市に交付されます。	地方譲与税など 4.4% 10億8,191万円			衛生費 5.3% 12億3,291万円 農林水産業費 3.5% 8億3,215万円 商工費 6.4% 15億1,005万円	ごみ処理や火葬場の維持、病気の予防、環境保全などに支出しました。 ■ごみ・し尿処理事業 / 3億4,404万円 ■新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業 / 2億3,538万円 ■予防接種事業 / 7,326万円
	市税収入の少ない市でも、市民に一定水準のサービスが行えるよう、国税（所得税、酒税、法人税、消費税、地方法人税）から一定の基準により交付されたお金です。	地方交付税 31.0% 76億790万円				土木費 6.2% 14億4,333万円 消防費 3.8% 8億8,033万円 教育費 9.9% 23億1,635万円
市が行う事業に対し、国が補助したり負担するお金です。	国庫支出金 16.7% 41億229万円	公債費 8.4% 19億6,366万円 その他 1.8% 4億2,789万円	商工業や観光振興対策に支出しました。 ■商工業振興事業 / 6億576万円 ■観光振興事業 / 1億3,598万円 ■道の駅いかりがせき大規模改修事業 / 6億7,169万円			
市が行う事業に対し、県が補助したり負担するお金です。	県支出金 6.5% 16億363万円		道路や公園の整備などに支出しました。 ■道路新設改良・道路附帯施設整備事業 / 1億8,503万円 ■市道除雪委託事業 / 3億6,714万円			
多額の経費がかかる事業を行うために、国や銀行から新たに借入れたお金です。	市債 22.2% 54億6,398万円		消火活動、救急救命などに支出しました。 ■弘前地区消防事務組合負担金 / 6億4,495万円			
				小中学校、公民館、生涯学習などに支出しました。 ■平賀東中学校大規模改修事業 / 2億6,407万円 ■ひらかわドリームアリーナ駐車場整備事業 / 1億5,901万円		
			借金の返済に支出しました。 ■長期債元金 / 19億4,311万円			
			議会の運営、災害復旧などに支出しました。 ■議会運営費（議員報酬など） / 1億5,820万円 ■災害復旧事業 / 2億6,968万円			

特別会計・企業会計

特別会計と企業会計は、特定の事業を行う目的でそれぞれ個別に経理するものです。

特別会計		
会計名	歳入	歳出
国民健康保険	35億3,326万円	34億4,987万円
介護保険	41億7,748万円	40億143万円
後期高齢者医療	3億5,809万円	3億4,859万円
診療所	2億3,225万円	2億3,225万円

企業会計			
会計名		収入	支出
水道事業	収益的	6億1,642万円	4億1,301万円
	資本的	2,647万円	1億508万円
下水道事業	収益的	9億5,978万円	9億8,786万円
	資本的	4億1,741万円	6億8,908万円

※1「収益的」…事業に伴って発生する収益と費用

※2「資本的」…施設整備などの将来の収益のための経費とその財源となる収入

市の財政の健全度は？

自治体の財政の健全度は、決算に基づく次の4つの指標で判断することができます。市は、昨年に続き「実質赤字比率」・「連結実質赤字比率」や「将来負担」がなく、また「実質公債費比率」が基準を下回っており、市の財政は健全な状態といえます。

健全化判断比率 (単位：%)				
指標	平川市の比率	平川市の前年比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	なし	なし	13.24	20.0
連結実質赤字比率	なし	なし	18.24	30.0
実質公債費比率	7.9	8.1	25.0	35.0
将来負担比率	なし	なし	350.0	

< 項目の説明 >

- ①実質赤字比率…普通会計などの赤字が経常的な収入に占める割合
- ②連結実質赤字比率…すべての会計の赤字が収入に占める割合
- ③実質公債費比率…地方債(国や銀行などからの借入金)の返済額が収入に占める割合
- ④将来負担比率…将来負担することになっている負債額が経常的な収入に占める割合

公営企業の経営状態は？

公営企業の経営状態が健全なのかどうかは、事業規模に対する経営資金の不足額の大さを表す「資金不足比率」で判断します。



平川市では、各会計で資金不足は生じませんでしたので、こちらも健全な状態にあるといえます。

資金不足比率 (単位：%)			
会計の名称	平川市の比率	平川市の前年比率	経営健全化基準
水道事業会計	資金不足なし	資金不足なし	20.0
下水道事業会計	資金不足なし	資金不足なし	

公営企業…「水道事業」や「下水道事業」などの皆さまからの料金収入などによって運営されている事業

平川太郎さんちの家計簿



収入	決算上の区分	金額
給料	市税	32万円
パート収入	負担金、使用料など	2万円
入学祝や饗別など	諸収入など	23万円
親からの援助	地方交付税・国県支出金	176万円
新たなローン	市債	67万円
収入合計		300万円

普通会計決算額をイメージしやすいよう家計簿におきかえてみました。

支出	決算上の区分	金額
食費	人件費	27万円
光熱水費、日用品代	物件費	29万円
医療費、保育料など	扶助費	52万円
小遣い、冠婚葬祭	補助費など	30万円
リフォームや車購入	普通建設事業費など	96万円
ローンの返済	公債費	24万円
貯金	積立金	2万円
子どもへの仕送り	投資、貸付、繰出金	26万円
支出合計		286万円

※300万円-286万円=14万円(黒字)は来年度に繰り越すことにします。